

「神の国のしるしを見つけるアドヴェント」

降臨節に読まれる福音書は再臨への備えを私たちに伝えている箇所が読まれます。第1主日は目を覚ましていなさい。再臨の主は突然やってくる。第2主日は洗礼者ヨハネが天の国は近づいたと悔い改めを民に告げています。第3主日は牢に入れられたヨハネが訪ねます。イエスは私たちが待つべき人であるか。イエスはその問いに対してはっきりと応えていません。しかし、イザヤ書を引用して主が来られることを述べています。クリスマス直前の第4主日になってようやく天使がヨセフの夢に現れてマリアの身に起きた出来事について告げる箇所が読まれます。

4回のアドヴェントの日曜日の中でこのような構成になっているのはA年、B年、C年共通です。アドヴェントは「到来する」という意味のラテン語「アドヴェントス」を語源にもつ言葉で、2つの意図があります。赤ちゃんの姿で私たちと全く同じ姿でこの世界に来られたイエスの降誕を祝うクリスマスの到来を待つ期節であるこ

とは皆さんよく知っていると思います。そしてもう一つの「到来」はイエス様の再臨です。

福音書は、むしろ再臨に関連することを語ります。そしてクリスマスの出来事も再臨と無関係でとらえてはいけないのです。

洗礼者ヨハネが、「悔い改めよ、天の国は近づいた」と述べていますが、悔い改めるといえるのは心を入れ替えなさいという意味もありますが、回転なのです。再臨の日が必ず来るから、様々な事に心ゆらぐ日々ですが、主は目に見える形ではっきりと来られる再臨の日まで、主がすでに肉体をとってこの世界に一度来られたクリスマスの喜びを皆で祝う時にイエス様不在のお祝い、つまり自らの満足を満たすようなクリスマスではなく、神の国のしるしを感じられるようなクリスマスの備えを考える時間がアドヴェントなのだと思います。小さなことでもいいと思います。何か愛の行動をしてみませんか。

(司祭 越山哲也)